

【会議録】

会 議 名	行政情報システム仮想化基盤更新業務委託事業候補者選考委員会（第3回）
開 催 日 時	平成31年2月21日（木）午前9時00分から午前10時40分まで
開 催 場 所	港区役所9階913会議室
委 員	出席者 5名 水野委員長、北本副委員長、内田委員、南委員、川口委員 欠席者 なし
事 務 局	若杉情報政策課長、荒川情報政策担当係長、大河内情報政策担当係長、 情報政策担当 角田、千代靄
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 第二次審査実施概要について 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について 5 閉会
配 付 資 料	<p>（席上配布資料）</p> <p>資料1 第二次審査提案説明（プレゼンテーション及びヒアリング）概要</p> <p>資料2 採点基準表（二次審査）</p> <p>資料3 第一次審査・第二次審査集計結果（※採点終了後、机上配布）</p> <p>参考資料1 提案説明における注意事項（事業者提示用）</p> <p>参考資料2 第二次審査評価集計結果（※採点終了後、机上配布）</p> <p>参考資料3 事前質問内容</p> <p>参考資料4 前回議事録</p> <p>参考資料5 第一次審査集計結果</p>

会議の結果及び主要な発言

<p>委員長 事務局</p>	<p>1 開会 (開会の挨拶) (配布資料についての説明)</p>
<p>事務局</p>	<p>2 第二次審査実施概要について (第二次審査実施概要について説明)</p>
<p>委員長 E委員</p>	<p>3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 (事業者入室) 【事業者3 プレゼンテーション】 ～詳細省略～ 【事業者3 ヒアリング】</p>
<p>委員長 E委員</p>	<p>各委員は挙手後、質問を行ってください。 実施体制について、港区の主要プロジェクトを担当しているグループマネージャーやプロジェクトリーダーを配置し確実に推進するという内容ですが、港区ではこれから、行政情報システムに関わる更新事業への対応が一斉に始まる予定です。このような状況の中で、何かあると区民サービスにすぐ影響が出るので、提案内容を確実に実施できるかどうか、もう一度確認させて下さい。2点目は、このプロジェクトを進めるにあたって想定されるリスクと、その場合にどのような対策を取るか教えて下さい。</p>
<p>事業者</p>	<p>プロジェクトマネージャー予定者からご説明します。まず体制は、現在我々がシステム共通基盤、仮想化基盤を担当し、来年度以降大きなシステム関連事業が控えていることから、今年度、体制強化を図っています。体制強化したメンバーを中心に、既存の運用が2割から3割で、本事業の仮想化基盤更新プロジェクトに、7割から8割ぐらいの従事率で従事しようと考えますので心配ないと考えています。 2点目のご質問について、移行に伴い業務システムを停止するタイミングを我々がコントロールできるものでなく、今後の主管課様とのヒアリングで決まるため、移行スケジュールが短期間となる可能性があることが、やはりリスクとして考えています。提案書にも記載しました対応としては、4月から6月に主管課、業務SVと綿密にヒアリングし、移行期間を3ヶ月より長くとれるように設定し、業務に影響の出ないようスケジュールを組むことで、リスク低減できると考えています。</p>
<p>E委員 B委員</p>	<p>わかりました。ありがとうございます。 利用期間について、仕様書に「制約がないこと」とありますが、提案書に「予定期間より短期になる場合、2年程度前を目安に連絡いただきますようお願いいたします」とあります。この2年という根拠と、これが制約に当たらないのか見解を教えてください。また、セキュリティの内容について、この仕様内容で対応したとして、他に考えられるリスクはありませんか。</p>
<p>事業者</p>	<p>まず2年程度の期間ですが、データセンターに持ち込んだ機器を終了後に有効活用する計画を立てる関係で、このぐらいが目安かと記載しました。実際には自治体の次年度予算の調製のタイミングで、もし使用終了の是非が分かれば、他での活用を検討</p>

	<p>することを考えております。実際のところは期間を設けません。できれば早めに教えていただければと考え記載しました。</p> <p>2点目のご質問については、セキュリティ的なりリスク性を認識しています。そこに關しましては、港区のイントラの中にプライベートクラウドを提供し持ち込むことで、最初のセキュリティポリシーという部分に関して、セキュリティリスクは完全に排除されます。また、よくセキュリティ性を問われるセキュリティパッチに関しては、サービスとして提供し、業務に影響のないような運用をしますのでご安心下さい。</p>
D委員	<p>提案書の作業スケジュールについてです。このスケジュール表にポイントが1から4まで記載されていますが、先ほど移行に伴う停止リスクのタイミングの話で、3ヶ月ぐらい移行期間を多くとることで、リスクを避けていると考えてよろしいということですか。ポイント1から4との関連でコメントいただければと思います。</p>
事業者	<p>4月から6月に全体移行計画という策定のプロセスを設けていますが、ここで、先ほど申し上げた制約がどの程度あるかを把握してから、切替の計画を立てたいと考えています。非常に重要なシステムだと認識しているので、期間が足りなくなった場合でも、まず検証環境から、お伝えした移行方式で検証をします。そこで問題ないことを確実にして本番環境を移行する段階的移行をし、確実に実施したいと考えています。</p>
D委員	<p>ありがとうございました。</p>
C委員	<p>事前質問のご回答を、先にいただいてもよろしいですか。</p>
事業者	<p>はい。まず1点目のICTダッシュボードとの連携についてです。ICTダッシュボードは現状、システム共通基盤の監視機能と連携しています。今回ご提案したIaaSにも監視機能を設けており、現状システム共通基盤の監視機能と重複する部分もありますので、システム共通基盤のリプレースの中で整理させていただき、IaaSに寄せられるものはIaaSに寄せたいと考えています。その中で、ダッシュボードに連携するデータについても現状のままでよいかも検討することを考えています。1点目の回答は以上です。</p>
C委員	<p>システム共通基盤のリプレースは未定ですが、ダッシュボード自体、そのシステムの稼働状況やリソースの使用状況、障害等含めた報告などの情報を一次集約する機能を担うものです。統合運用や共通基盤だけではなく、出口はICTダッシュボードであるべきというのが我々の考えです。</p>
事業者	<p>では、2点目の回答、お願いします。</p> <p>2点目のバックアップについてです。結論を申し上げますと、ブレイクスルーはありました。現行のシステムのシステムバックアップは、バックアップをとる時に確かにそのシステムを停止せずにOSが稼働している状態で実施しています。ただ、夜間の通常使用しない時間のデータということで、更新のないものをバックアップしているということになります。一方、今回、ご提案するIaaS環境は、スナップショットでバックアップが取れるという仕組みが、サービスに盛り込まれています。スナップショットを使って静止点というものを作りバックアップをとる、という形に今回変えようと思います。</p>
C委員	<p>スナップショットが静止点になり得るのですか。以前はスナップショットが静止点になり得ないと聞いたので、システムを止めてバックアップを取る設計になっていたはずですが。今はスナップショットが静止点になり得るということですか。</p>
事業者	<p>そうです。</p>

C委員 事業者	いつから変わりましたか。 スナップショットが静止点になるという機能は、VMウェアの機能です。以前よりバックアップツールがVMウェアと連動できる機能を設けていましたが、インターフェースをとるところの実働の保証が取れてない部分がありました。
C委員	現在は連動できるAPIができていますので、実装させていただきます。
C委員 事業者	問題はスナップショットが静止点になるかどうかという議論ではなくて、御社が担ぐハードウェア等の制約だったということですか。 そうです。前回では、まだ実績が少なかったのですが、今回は実績も積まれてきて技術的にも担保がとれてきましたので、サービスに盛り込んで提供します。
C委員	わかりました。3番目、お願いします。現行仮想化基盤のESXiエディションでストレージVモーションを実現できるのかと、またISSのバージョンが異なる場合でもこの手法は使えるのかという2点です。
C委員 事業者	今、仮想化基盤で使用しているESXiエディションでストレージVモーションは実現できます。
C委員 事業者	港区はエンタープライズプラスですか。 はい。
C委員	エンタープライズプラスということで理解しました。ESXiのバージョンが違う場合でもこの手法は可能ですか。と言いますのは、提案書にESXiを移すということが、さらっと書かれてます。ですが、そこは一番大変で結構リスクがあると思います。これについて詳しく教えてください。
C委員 事業者	提案説明資料の左側にESXi5.2アップデート2というのが点線で右側にくっつくというこの機能がご心配なところでしょうか。
C委員 事業者	切り離すのは容易ではないと思いますが、どうですか。 はい。ネットワークから切り離すのではなく、Vセンターバージョン5.5の方の定義から一度外して、稼働の状態で定義をそのまま右側の6.5の方に向けるという切り替え方をします。
C委員	現行仮想化基盤と次期仮想化基盤は少なくとも物理的な筐体もストレージも違わずです。現行基盤にある仮想化イメージを次期仮想化基盤につなげる感じですか。
C委員 事業者	はい。次期仮想化基盤にマッピングします。
C委員 事業者	その時にバージョンの差異は影響出ませんか。 Vセンターが上位バージョンであれば、下位バージョンを紐づけは可能です。
C委員	わかりました。それでは4番目の回答をお願いします。
C委員 事業者	移行対象システムの保守事業者に対する移行作業の再委託に関してです。 再委託は考えていません。IPアドレス、マックアドレスを基に情報を引き継ぎ、その前提でゲストOSが正常に稼働しているか確認し、アプリケーションの事業者様は標準的な動作確認の実施依頼を考えています。
C委員 事業者	安全に移行できたと確認できる理由は何とするのですか。 最終的に本当に移行できたかどうかは各業務システムが動作するところまでと考えていますが、ゲストOSまで確認できたからといって、あとはお任せというわけではありません。各業務システム保守事業者の動作確認が終わるところまで立ち会い等実施し、もし問題が起きた場合は原因の解決に向けて支援することを考えています。 また、作業前にイベント内容やログ内容を確認します。切り替えた後に、或いは再起動とかエラーメッセージが出たりするケースがあるので、通常作業のエラーなのか

なのかを確認します。切り替えた後も同じような形で、イレギュラーなものがないか必ず確認をして、業務としての確認作業を各業務システムの保守事業所なのか、港区かというところまで最終確認をとります。弊社でも以前と変化がないかという確認を必ず取った上でお返しをします。

C委員

それぞれ各システムの保守事業者がそれで良しとするのかどうかです。各業務システム保守事業者に対してはどのように説明しますか。

事業者

弊社側が管理するレイヤーで問題はないことを、弊社で確認を取り、伝えた上で合意し、そのエビデンスをお互いに取った上で、ここまで一致しているのは問題ないということで次に進んでもらうという考え方をとってやります。

C委員

この場に各業務システム保守事業者がないので結論は出ませんが、最初から移行プロセスの中に各業務システム保守事業者を巻き込んだほうが二重の作業が不要となるとも考えますがいかがですか。

事業者

そこはプロジェクトが始まってからの移行設計や全体移行計画で定義しようと思います。ただ、現状の仮想化基盤ではOSより上は基本的に各業務システム保守事業者の保守範囲を引き継ぐと、今回のご提案ではこのような内容となりました。

C委員

わかりました。

このプロジェクトにおいて従事率が7割とのことですが、残りの3割は何ですか。既存の案件ですか。

事業者

強化したメンバーが中心になって既存案件の保守対応をしますが、過去のノウハウの伝達等もありますので、そういった面で、本案件への従事率を10割とせず7割としました。

C委員

我々から見ると、従事率がはっきりわからないのですが、その点を評価できる手段はありますか。

事業者

定期的に打ち合わせを実施したり、打ち合わせ以外でも調整などで区と会話する機会があるかと思います。その中で7割というのが港区様にも実感いただけると考えています。

C委員

受け止め方の問題となってしまいますが、仮に「これでは今回のプロジェクトは不安です」といった場合には、体制の変更をお約束できますか。今回、このプロジェクトをお願いした場合は、当然体制を含めて、我々の要求をきちんと汲み取って対応いただけますか。確認させて下さい。

事業者

私含めて、頑張りたいと思います。

C委員

ありがとうございます。

委員長

他によろしいですか。では、以上をもちまして事業者3による説明を終了いたします。どうもありがとうございました。

4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について

委員長

事務局より集計結果について説明をお願いいたします。

事務局

事業者番号3の第二次審査の得点は1260点です。第一次審査と第二次審査の合計得点は、5028点です。得点率については、第一次審査が81.9%、第二次審査が63%、総得点に対する合計得点率は76.2%となり、事業者番号3が1位となりました。評価集計結果のご説明は以上です。

委員長

これより意見交換を行います。これまでの技術評価も含め最終評価についてご意見などをお聞かせください。

B委員	この仕事をチームでやっていくのだなという印象を受けました。プレゼンされた方が質問に答えていなかったのが少し気になりましたが、上席の方のサポートがあるのだろうと感じました。もっと区的环境を知っていることを技術的にも前面に出したほうが良かったのではと思いました。
D委員	体制の不安ということで、7割の根拠などについて充分説明がありませんでした。人手不足の厳しい業界の中、チームとして体制を整えているのだと思いますが、少し不安でしたが、あとは問題ありません。
C委員	いくつか課題は残されていると思います。特に体制の問題はまだ懸念すべき材料があり、実際に契約し、業務履行中も確認していく必要があるという認識です。 また、制約条件に関してはお願いという言い方まで後退させてくれたので、港区の契約サイクルに合わせた形でサービス提供を受けられる可能性が高まったというのは非常に良かったです。
E委員	二次審査の採点基準表の1番から3番の項目については、提案内容も踏まえて優れていると評価しました。今日の状況を見ますと、4番の質問に対する対応も5番その他提案ということでも特段なかったなので、一般的という評価をしました。
A委員	また、提案書を読んだ時とそれほど印象も変わりませんが、事前質問に対する技術的なことや製品の話については、契約前には答えにくい部分もあると思います。ここで全部を即座に答えるのは無理だろうと思います。今後、契約するとしたならば、プロジェクトの中で体制が本当に組まれているかとか実働の70%出ているかとか、フィードバックすることが一番大事なポイントだと思います。
委員長	ご意見その他よろしいでしょうか。それでは意見を元に、事業者3を候補者として選定しますが、よろしいですか。
全員	異議なし
事務局	5 閉会 (事務局より事務連絡)
委員長	行政情報システム仮想化基盤更新業務委託事業交付者選考委員会を終了いたします。本日はお忙しいところどうもありがとうございました。